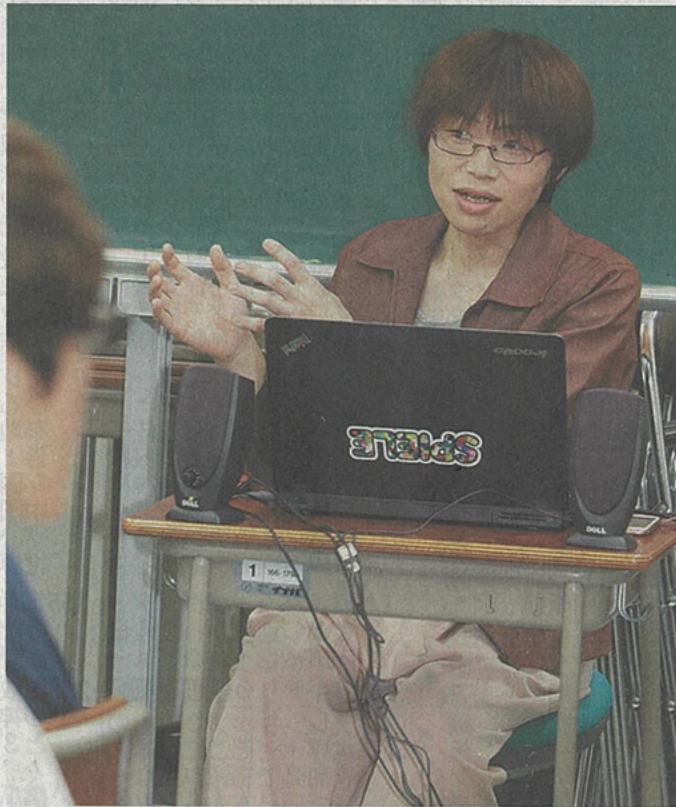


# トランスジェンダー打ち明け 初講演

## 性は多様 私を知って

「男らしさや女らしさではなく、自分らしさを」と訴えるトランスジェンダーの奥山ひかりさん(9日、富山市新桜町の第一学院で)



### 射水の会社員「当事者の励みに」

奥山さんは体の性は男だが心の性は女で、好きになる相手は性別を問わないと自身を紹介。結婚し、二児の親であることも明かした。自分の経験から「私がたまたま好きになったのが現在の妻だったので、結婚も子どももできた。ただ、こっぴどいかな当事者もいることを知ってほしい」と語り掛けた。

六年ほど前にトランスジェンダーを妻に打ち明け、その後、性同一性障害と診断された。女性の体に近づけるホルモン治療は三年前から始め、性別適合手術を検討している。手術は本年度から保険適用となったが、手術とセットで受けるホルモン治療は適用外になっていると説明。「性は多様で、それに対応する法律の不備はまだ多い」と指摘した。

職場ではトランスジェンダーを打ち明けておらず、男性として働く。そうした境遇に「男らしさや女らしさの二極化でくぐるのではなく、これからの時代は自分らしさを大切にしてほしい」と訴えた。さらに「当事者は皆さんの周りにもいるかもしれない」と問い掛け、「打ち明けられたらその人の個性を大切に、今まで通り接してください」とも呼び掛けた。

講演は同校が数カ月ごとに外部講師を招いて開く授業の一環で、一〜三年二十六人が参加。松原剛さん(三年)は「もし当事者が周りにいたら、個性として受け入れたい」と感想を語った。

心と体の性が合わないトランスジェンダーの当事者、富山県射水市の会社員奥山ひかりさん(四二)＝本名・奥山光利＝が九日、通信制高校の第一学院(富山市新桜町)で性的少数者をテーマに講演した。「自分のことを知ってもらって、少しでも当事者の人たちの励みになれば」との思いで、初めて本名と顔を出して活動を開始した。(向川原悠吾)